第4回 大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会 会議録

日時：令和元年10月30日（水）

午後3時00分～

場所：大阪狭山市役所 3階

協議会室

1 開会

事務局：ただ今から、第4回大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会を開催します。議事に移る前に、本日の傍聴者の報告と、本日の配布資料の確認をさせていただきます。

まず、本日の傍聴は1名の申し込みがありましたことをご報告させていただきます。

次に、資料を確認します。会議次第、次に資料1「大阪狭山市教育振興基本計画（第1章～第3章）案」、資料2「第1章～第3章修正一覧表」、資料3「大阪狭山市教育振興基本計画（第4章～第5章）案」、以上4点の資料です。なお、会議次第以外の資料については事前配布させていただきましたが、ご持参いただいておりますか。

お揃いですので、会議を始めます。委員長、進行をよろしくお願いたします。

委員長： それでは第4回大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会を始めさせていただきます。本日の会議は約2時間、午後3時から5時までを考えております。2時間という短時間ですので、ご発言いただく際には、要領よくお願いします。とはいうものの、いろいろなご意見をいただき、意見交換の中で原案を高めていき、よいものをつくっていきたくと考えております。よろしくお願いします。

議事に入る前に、先般、大阪狭山市総合教育会議が開催されましたのでご報告をいただきたいと思っております。よろしくお願いします。

事務局：先般開催されました大阪狭山市総合教育会議についてご報告させていただきます。

令和元年10月4日金曜日、午前10時から、市役所3階委員会室にて、令和元年度第1回大阪狭山市総合教育会議を開催いたしました。地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、地方公共団体の長が定めることとされている教育、学術及び文化の振興に関する大綱、いわゆる教育大綱について、本市では現行の教育振興基本計画に掲げている「基本理念」、「基本方針」、「重点目標」をもって大綱と定めていることから、総合教育会議では次期教育振興基本計画の策定に伴い、今後の大綱の取扱いについて市長と教育委員の意見交換を行いました。

本市における今後の大綱の取扱いに対する方向性としては、次期教育振興基本計画の策定に向けた審議内容などを踏まえ検討していく予定であるとのことから、教育振興基本計画策定の進捗状況や策定委員の皆様方からいただいたご意見などについて報告しましたところ、第3回策定委員会でご承認いただき、成案といたしました「基本理念」「基本方針」及び「重点目標」についてはご理解をいただきました。

また、種々ご意見をいただきましたので、その内容の一部をご紹介します。基本方針2「一人ひとりを大切にする教育を推進します」の格上げは嬉しく思う。人権教育はその側面である「人権のための」「人権として」「人権をとおして」「人権について」という4つ

全てが繋がっていなければならず、どれか1つが欠けてしまっても目的は達成できないというふうに言われている。そんな中、基本方針2「一人ひとりを大切にする教育を推進します」ということは、まさに人権を通して教育を、人権保障を通して人権教育をしていこうということであると思う。人権侵害を受けやすい立場の子どもたちを含む一人ひとりを大切にするということ掲げていて、さらに基本方針ごとにわかれているわけではないが、さきほどの4つの側面が含まれているよい構成だと感じた。さらに人権教育は子どもたちだけでなく、子どもたちが見て育つおとなに対しても適切に行わなければならず、それが基本方針3に含まれる学校経営改革に位置付けられており、その視点もしっかりと補われていると思う。

以上のようなご意見をはじめ、その他の委員の方からも肯定的なご評価をいただいております。また、「専門的な外部人材の配置や教職員の研修実施など、今までの取組施策として充実させてきたものについては、引き続き継続してほしい」というご意見などに加え、多様性理解の推進については子どもに対する支援はもちろんのこと、保護者への支援も期待したいとのご意見もございました。

しかし一方で、事業を展開していく中で、現計画に基づく各種事業が充実しているにも関わらず、その周知が不十分なことから効果や活用が得られにくいのではといったご意見もありました。今後はこれらのご意見も考慮し、素案作成に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、ご報告とさせていただきます。

委員長：ただいま、事務局からご報告をいただきましたように、総合教育会議では私たちの策定している教育振興基本計画について、全体を通してご評価をいただいているとのことですが、ただ、一方では多様性の理解を推進しなければいけないという課題や、「周知」に関して、広報をよりしっかりと行わなければいけないという課題をいただきました。

ただいまの報告について、皆様方からご意見をいただきたいと思っております。

一同：(意見なし)

委員長：では、了承したいと思っておりますが、いかがですか。

一同：(異議なし)

委員長：では、この会議もあと数回ということで、後半になりました。引き続き、皆様方のご協力のほどお願いしたいと思います。

2 議事

(1) 大阪狭山市教育振興基本計画（第1章～第3章）案の修正について

委員長：お手元の次第に沿って議事進行を進めます。

1点目「大阪狭山市教育振興基本計画（第1章～第3章）案の修正について」修正案に沿って、事務局より説明をお願いします。

事務局：事前配布させていただきました資料1「大阪狭山市教育振興基本計画（第1章～第3章）案」をご覧ください。

9月6日に開催しました第3回策定委員会でご審議いただきました内容や各事業担当グループからの照会結果などを踏まえ、前回の会議資料から修正を加えたものが資料1となっております。その修正内容を資料2の一覧表に記載しておりますので、併せてご覧ください。委員の皆様方には事前に資料を配布させていただいておりますので、主だったところのみ簡単に説明

をさせていただきます。

まず、全ページを通して、「取組み」「あり方」「さまざま」など、漢字や送り仮名について統一がとれていなかった用語について、統一した表記となるよう修正をいたしました。

また、西暦の表記を和暦に統一しました。

資料1の5ページをご覧ください。上から2行目で始まる第五次大阪狭山市総合計画の大綱に触れた部分ですが、ただいま総合計画が策定作業中であるため、「未定稿」と表示しています。この未定稿の部分については、今後、総合計画策定の過程で変更が生じると、修正していく可能性があります。

また、10ページから13ページまでに掲載している各種推移データについても、総合計画を含め関連計画に合わせて同様に、適宜修正をしております。

なお、修正を行った場合は、随時、策定委員の皆様にご報告をさせていただきますので、併せてご了承願います。

次に14ページ、15ページをご覧ください。第3回策定委員会でご指摘いただきました図表について、より充実した形で掲載しております。また、全国学力・学習状況調査結果の図についても、次ページに掲載しております。併せて「学力の状況」の説明や全国学力・学習状況調査結果の分析について、より詳細な内容に修正しました。

36ページをご覧ください。36ページから40ページまでの「アンケート結果等から抽出された課題」については、前回の会議でのご指摘を受け、アンケート結果からみえてきた課題だけでなく、各種事業の実績からみえてきた課題や、社会動向などにより新しく取り組むべき課題などの記述を追加しました。主には幼児期から中学校までの連携を踏まえた学びの一貫性やキャリア教育の推進、読書習慣の定着化について追記しました。

42ページをご覧ください。基本理念そのものの修正はありませんが、下段に記載している解釈のうち、「学びあい」と「つながりあい」について、読み手に伝わりやすいよう、表現を修正しました。

最後に、44ページをご覧ください。44ページから47ページまでは、次期計画の基本方針ごとの内容を記述しております。前回の会議では新しい時代に必要となる資質や能力の育成、市民性教育の推進、地域人材に関することなどにご意見をいただいたことから、それぞれ追記や修正をいたしました。

簡単ではございますが大阪狭山市教育振興基本計画（第1章～第3章）案の説明は以上です。

委員長：ありがとうございます。ただいま、事務局から、第1章から第3章までの説明をいただきました。第3回の策定委員会の審議の上、委員の皆様からいただいたご意見も踏まえ、事務局で修正作業を行っていただいたものを、郵送などでお渡ししたということです。

何かご意見、追加修正などはございませんか。

委員：4ページの1行目に「平成18年12月に施行された改正基本法」とありますが、これは教育基本法ですので、そのように表現したほうがよいと思います。

事務局：申し訳ございません。修正します。

委員長：よろしいですか。他にご意見などはございませんか。

委員：16ページの「学力の状況」で、前回の策定委員会には指標がでておらず、今回入れていただ

きました。特に、中学校の国語、数学が、この3年で急勾配に落ちています。私は3年前に狭山中学校の学校協議会の委員をしていましたが、中学校は大阪でも有数の学力だとお聞きしておりましたので、急勾配で学力が低下しているように感じ驚きました。評価が17ページにあります、「小学校、中学校の平均回答率は概ね全国平均に近い数値で推移しています。」の記述について、確かに平均値に近い数値ではありますが、これだけ落ち込みがあるということであると、何か対策を講じる必要があると思います。「平均値に近い数値」ということで満足してはいけないと思います。

委員長：関連するご意見はありませんか。では、できる範囲で事務局より回答をお願いします。

事務局：平成28年度以降、特に中学校で、国語、数学共に落ち込みがあります。国語については、非常に大きい課題と考えております。さまざまな要因が考えられますが、子どもたちに読書活動をもっと推進していかなければいけないと思います。また、各教科で学習したことを、実生活で活用して定着させるというところに、非常に弱い部分があるのではないかと、本年度の分析などを通して感じました。例えば中学校の調査において、「手紙の宛名を書く」という出題がありました。実は、小学校の中学年から繰り返し取り扱われた学習内容なのですが、知識や技能として定着していないということがわかりました。「相手意識をもって宛先を書く」という学習活動をこれまで意識してやってきたのかどうか、子どもたちが今後生きて働く力として身に付ける必要があると考えて教員が指導してきたかどうかを見直す必要があります。

そこで、各教科と地域とのつながり、実生活の部分をうまく組み合わせて取り組んでいきたいということで、ここに今後の課題として表記しています。

委員長：事務局よりご回答をいただきました。他にもご回答があればお願いします。

事務局：この部分は大阪狭山市の現状をつまびらかにしていくということで、データを示している部分です。これに対する取組みとして、第4章の重点目標2のあたりで、具体の施策への落とし込みをしていきたいと思います。この部分と併せて議論をいただければと思います。

委員長：具体的な施策をする前に、この基本計画の中でしっかりと問題意識として共有することが大事だと思います。委員のご意見は大変貴重だと思いますので、問題意識として共有したいと考えます。いかがでしょうか。

委員：以前、狭山高校の学校協議会でこのような問題が起きました。3年周期で、学力が上がったり下がったりすることの繰り返しでした。そのような場合、担任を変えたりして、いろいろな先生を万遍なく各学年に配置するという施策は考えられませんか。

このデータは3校の平均ですので、1校に偏ってないため違うかもしれませんが、いかがでしょうか。

委員長：いかがでしょうか。

委員：やはりそれが原因なのでしょう。

委員：一つの原因ではないのでしょうか。以前、そのように聞きました。

委員：我々のころは、中学校は狭山中学校しかありませんでしたが、結構学力は高かったと思います。今後はどのようになるのでしょうか。何とかしようと思っても、なかなか学力は上がらないと思います。本気で取り組まないといけないと思います。

委員：人材配置をうまく考えていただきたいと思います。

委員：今のご意見のようなことがないとは言いきれないと思います。確かにそのようなことは要素と

してあるかもしれません。校内人事の中では子どもたちとの関係や保護者との関係がありますので、基本は中学校3年間のローテーションとしていますが、途中で入れ替えることも考えています。

もう1点は、やはり相対として弱い学年というものがあることは事実です。私どもも、中学校だけでなく、小学校でのその子どもたちのがんばり具合と、中学校3年生と比較する中で、先生方の取組みがどうであったかという評価もしています。いろいろな取組みをしながら、後の施策にもつながるのですが、国語については、本当に狭山中学校でも課題になりましたし、この会議でも前回、議論させていただきましたが、今の南中学校でも課題になっています。どの授業においても、記述の時間に重点を置くというような取組みをしましたが、やはり変わりません。今、新たに朝学習の中で、新聞の記事を活用して、グラフや文章などを読みとり、自分の言葉で表現するということをしています。今、求められていることを、より具体的にするような、反復する取組みを進めています。

委員長：いかがですか。

委員：そのご意見はとても重大な課題だと思いますが、対処だけではだめだと思います。根本的な、根底的な対策が必要だと思います。イギリスのことわざで「馬を水飲み場につれていくことができても、水を飲ませることはできない」というものがあります。

私の娘も大阪狭山市で育てておりますが、与えられて本人がやる気をだすような、興味をもたせるような授業内容、魅力のある授業ということで、先生方の資質を向上する必要があると思います。子どもたちが興味をもち、耳を傾ける授業ができる人材を育成していただきたいと思っています。

委員長：ありがとうございます。他にご意見などはございませんか。

私から意見を言わせていただきます。大阪狭山市の状況は、それほど悪いものではないと思います。大阪府内では上のほうです。ただ、下がってきたことは事実です。平成27年度当たりの小学校の国語が下がっています。このときに、大変な課題であるということを教育委員会の点検・評価で指摘したことがあります。その影響が今、中学校で表れているのだと思います。予想できなかったことではありませんが、よい状態ではありませんし、問題としても出てきていますので、この計画をもとに具体的なことを教育委員会にて検討してほしいと思います。

この問題についての議論は終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、他のことについて、ご意見をお願いします。

ないようですので、次に進みます。

(2) 大阪狭山市教育振興基本計画（第4章～第5章）案の修正について

委員長：議事の2点目「大阪狭山市教育振興基本計画（第4章～第5章）」案に沿って、事務局より説明をお願いします。

事務局：議事の2点目「大阪狭山市教育振興基本計画（第4章～第5章）」案について、お手元の資料3に基づきご説明させていただきます。

2ページをご覧ください。第4章の基本的な構成ですが、重点目標ごとに現状と課題、施策の方向性をまとめ、取組施策ごとにその方向性について記載いたしました。重点目標見出しの下段に表示しています、カラーのロゴについては、第1章で記載しているSDGsのうち、その

目標の達成に寄与すると考えられるものを掲載しました。

取組施策の内容、およびその方向性については、担当グループで実施している事業を踏まえ、各重点目標に振り分けて記載しております。1つの事業が複数の重点目標の達成に寄与する場合においても、現時点では再掲せず、主に関係する重点目標のページに記載することとしました。

また、本日の資料についてはたたき台としてお示ししております。本日、皆様方から忌憚のないご意見をいただき、それらも踏まえながら新規事業や新たな事業展開をしているものなど、内容の精査をし、次回、改めてお示しさせていただきたいと考えておりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

第5章については、36ページをご覧ください。この章では、計画の推進に向けて、計画の周知や進捗状況の点検・評価、評価指標についてまとめました。

現計画においては、計画期間中に実施した事業に対する評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく点検・評価として、毎年度、各事業実施の担当グループにより、その成果などの調書を作成し、自ら点検を行い、識見者の指導のもと、これを取りまとめたものを点検・評価報告書として、教育委員会への報告と併せて議会に提出し、公表を行っておりますが、次期計画においては、各取組施策が予定どおり進捗しているかをより客観的に把握した上で評価できるよう、重点目標ごとに主要項目として、3から5項目程度の参考指標を設定することで、特定の指標の結果のみで評価結果が左右されないような設定をしていきたいと考えております。

具体的には、上位計画となる総合計画との整合性という観点から、総合計画に掲げる予定としている指標を基本としつつ、取組施策を実施することによって直接の結果として発生する成果物・事業量が明確になるものは数値化を行い、また、実施することの効果・成果が評価結果となるものについては、その時点の状態を指標としていきたいと考えております。

ここで、委員長にご了解をいただきたいのですが、10月8日に内部組織の検討委員会を開催させていただき、本日お示しの事務局案を検討する中で、指標の設定内容について議論を行い、事前に各グループに照会の上、指標案を取りまとめたものを本日用意しております。これをお配りして、検討の参考にいただければと存じますが、いかがでしょうか。

委員長：事務局からのご提案ですが、皆様よろしいですね。

では、事務局は追加資料の配布をよろしく申し上げます。

事務局：今お配りしました資料のうち、1つは照会後の各グループからの意見をまとめたものです。

残り2点は、照会を行う際に他市の参考資料として添付したものと同一ものです。ご検討いただく際に一緒にご覧いただけると、より具体的にイメージできるかと思います。

なお、この指標の件については、本日のご意見を踏まえ、次回の策定委員会までに取りまとめができしだい、適宜、情報共有の上、メールや郵送などでご意見をお聞かせいただきたいと考えております。委員の皆様にはご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

委員長：ありがとうございました。

では、第4章、第5章について、ご意見などがあればお願いします。

委員：3ページの主な取組み②ですが、「道徳心や規範意識を育む指導の充実」ということで、ここでは「道徳心や規範意識を培う指導を充実します」とありますが、「社会に貢献する」という部分

をここに入れるべきだと思います。15ページの施策の方向性の具体例に入っています。「社会の一員として自立し、大阪狭山市を担う人材として、社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けるため、社会形成・社会参加に関するシチズンシップ教育を推進します」ということが書かれています。多様性の理解推進のところよりも、こちらのほうがふさわしいと思いますが、いかがですか。

委員長：このご意見に関連するご意見はありませんか。

では、この問題については学校教育グループからご回答願えますか。

事務局：学校教育グループ所管の小中学校の道德教育とも、この観点は今後検討していく必要があると考えています。ご指摘の3ページの部分は、主に就学前教育の範囲に入ってくるかと思えます。15ページの部分については検討させていただきたいと思えます。

委員：就学前教育からやっていく必要があるのではないかと思います。小中学校に行ってからでしょうか。

事務局：大きな目標としては「社会の一員として自立するために、就学前教育の中で、このようなことをやっていきましょう」ということになるかと思えますが、3ページに関してはそこまで大きく捉えることは、なかなか難しいと思えます。

委員：「三つ子の魂百まで」と言いますので、就学前はとても大切な時期だと思います。

委員：ここが始まりになると思えます。

委員長：さきほど、学校教育グループの方にご回答をお願いしましたが、保育・教育あるいは子育て支援グループの方にも議論に入っていただきたいと思えます。よろしくお願いたします。

2017年の学習指導要領の中で、幼稚園教育要領や保育所指導基準も、このことについて言及しています。

事務局：一度検討いたします。

委員長：関係グループの方、他の委員の方からも積極的なご発言をお願いします。

事務局、いかがでしょうか。

事務局：今、担当所属からご答弁させていただきましたが、できれば再度、内部組織の検討委員会などで、もう一度議論を深め、改めてご提案させていただきたいと思えます。

委員長：内部でのご検討、よろしくお願いたします。

委員：「道徳性」「道徳教育」「規範意識」などの言葉の統一性、使い分けについて、いろいろな言葉を厳密に使い分けているのか、そのときの流れの中で使っているのか、読み取れないものがあります。そのようなことも併せてご検討ください。

事務局：承知しました。

委員長：少し話題を変えて、他の観点からもご質問、ご意見などをお願いします。

委員：前回の委員会の最後に、コミュニティ・スクールについて説明をしていただきましたが、第4章を見たら10ページの重点目標4「教員の資質能力の向上」の主な取組みのなかに、コミュニティ・スクールが入っていますが、なぜでしょうか。コミュニティ・スクール自体は評価をする団体ではないと思えます。

委員長：コミュニティ・スクールを取り上げる場所についてのご意見です。学校教育グループ、いかがですか。

事務局：重点項目4の「教員の資質向上」ですが、学校の取組みを評価いただくということで、その

機関としてコミュニティ・スクールや本市で行っている「学校まるごとパック事業」など、学校の取組みについて、地域の方のご意見をいただくということです。資質向上というよりも、学校力向上というような部分で記載しました。

委員：学校協議会は評価しています。コミュニティ・スクールはお互いに学校をつくり上げていこうという組織ですので、評価をしていこうという組織ではありません。

事務局：ここの取組みの内容で挙がっているコミュニティ・スクールは、学校の評価をしていただく機関の1つの組織として挙げています。コミュニティ・スクール自体の取組みは、基本方針3で具体的な取組み内容や事業というものについて、表記していきたいと考えております。あくまで、ここでは機関として「コミュニティ・スクール」という言葉を使っているというだけだと思っております。

事務局：重点目標4、25ページでは「コミュニティ・スクール」という言葉は使っていませんが、例えば⑦では、「学校運営協議会」というように複数の場所に重なっての記載になっています。ここにも「コミュニティ・スクール」という言葉を入れるべきかと思っております。

先ほどの道徳の話にも関わりますが、計画の性質上、どこかに落とし込みをしなければいけません。いろいろな施策がたくさん要素をもって取り組まれている関係で、あちらこちらに関連するような内容が、結構あると思います。コミュニティ・スクールでも、「絶対、ここにしかない」というものではなく、複数の目標に関わってくるということです。いろいろな場所にてくるものを、今後、どのように扱っていくのか、もう少しご議論いただきたいと思っております。

委員：それについては、いろいろなものが出てきたらよいと思います。先ほど申し上げた、社会性を養うというようなことは、具体的なものはここで取り上げたらいいというように、他の場所でも内容に触れるところがあってもよいと思います。

事務局：どこに一番重点をおいて関わるのかということについてのご意見を、たくさんいただきたく思います。

委員：それでよいと思います。

委員：地域評議会とか学校協議会、学校運営協議会とか、いろいろな言葉が出てきますが、よくわからない状態です。5年前は、コミュニティ・スクールに関しては、1項目として明示してあったと思います。いかがでしょうか。

図表にして、どのような位置付けになっているのかを、前の計画にはあったと思うのですが、それが実現もしていないのに消えてしまっているのは、おかしいと思います。

委員長：重点目標4で挙げていることで、先ほどご質問があった部分とは関連すると思っております。その重点目標4の取り上げ方がどうかは別の議論になりますが。

委員：現在、コミュニティ・スクールはまだ立ち上がっていないのですね。努力義務として、やがて立ち上げていこうとお考えだと思いますが、この表記が「学校運営協議会や学校協議会」と出ていますが、将来的にコミュニティ・スクールはすべての学校で立ちあがったときに、学校協議会はまだ存在するのですか。

事務局：並立はしませんので、すべてがコミュニティ・スクールに移行すれば、当然、学校協議会はなくなります。

委員：いま、校長会でもこのことについて意見交流していますが、現在ある学校協議会を膨らませる

ような形、学校協議会をコミュニティ・スクールに移行していくという考え方で話をしています。そこを踏まえた表記にさせていただいたほうがよいと思います。

委員長：今、学校協議会を少しずつ広げていく、大きくしていく、そうして国が求めている姿に近づけていくという努力をしているという段階ですね。

事務局：重点目標4の⑦、コミュニティ・スクールについては、もう少しわかりやすい表記にします。

委員長：ご意見のようにわかりやすく表記してください。

他にご意見などはございませんか。

委員：5年後に向けての指標について、青少年の事業のうち自主的活動が5年後に100倍とありますが、具体的な施策はありますか。重点目標3です。数値で100倍以上の数を上げていますが、前回の会議でも青少年のボランティア活動がほぼ皆無とっていいほどないということが提言されていたと思いますが、100倍近く上げる目標に関する取組みは何かありますか。

委員長：担当グループ、よろしく願いいたします。

事務局：これは他市の参考事例ですので、本市の実績ではありません。

委員長：他市の資料を2点参考に添付させていただいています。

委員：わかりました。では、別の質問をさせていただきます。前回、議題にあがりまして、青少年ボランティア活動、あるいは主催活動に関して、何か取り組んでいくような計画はありますか。

委員長：青少年のボランティア活動に対する取組みということで、行政がどのように支援していくかということですね。担当は社会教育・スポーツ振興グループでしょうか。

事務局：特別なことはできていないのですが、公民館を中心に活動していただいています。年齢層が高い来館者が多いので、まず若い方にも来ていただくという取組みをしております。その一環として、放課後、若い方に公民館を開放して、自習してもらおうという「放課後公民館」という活動や、来ていただくために、若い人向けの講座も実施しています。例えば、パソコンに関する講座などです。そのようなことから、公民館にまず興味をもっていただき、さらにはボランティアにも目を向けていただけるようにするという取組みを実施しております。それが、すべてボランティアに直結するかどうかはわかりませんが、まずは施設の魅力を上げて、施設に来ていただくということから取り組んでいます。

委員長：ありがとうございます。

他にはございませんか。よい考えがあればご提案ください。

委員：常々申し上げていますが、学校教育と社会教育が連携しない限り、子どもたちが学校で学んだことを実際に活動に活かすことは、なかなかできないと思います。その部分がうまくいくためには相互理解を深めることが必要で、そのためにはどのようにしたらよいか考えなければいけません。

また、全体として決めたことが本当に実行されたのか、成果がどうなのかということをつくってから5年後近くになってから見返すのではなく、途中で見返し検討する必要があるのではないかと思います。そうでないと修正ができず、次の計画までこのままだとすると、内容が5年遅れになると思います。実行されているのかという疑問が残るのと、いくら素晴らしい計画でも、子どもたちの現状と一致している気がしない部分がたくさんでくると思うので、途中で確認していく必要があると思います。

委員長：学校教育と社会教育の連携ということと、検証、進行管理の必要性についてのご意見です。

委員：実行しているかどうかということですが、だれが実行するのかを考えていますか。どこがどのように役割を担うのか、検討していますか。

委員：自分が行っている活動しかみえないところはありますが、子どもたちが今後、社会で生きていく中で、勉強だけでできればよいということではなく、スポーツだけであればよいというわけでもありません。いろいろなことができ、それぞれにしっかり取り組むことが必要だと思います。

「これだけ取り組めば、もういい」という時代ではなく、3つ、4つやることもあり、それぞれ全部がんばらなければなりません。学校教育のなかでは学習が一番で、部活動は二番であり、社会教育で行う活動は学校の先生方が否定的なところもあります。学校では「今は、この授業」というように進みますが、社会に出ると、働きながら3つ、4つ、いろいろなプロジェクトを進めていかなければいけません。子どもたちには、いくつかのことを並行して実行する力をつけてあげる必要があります。そのためには学校教育と社会教育の連携が必要であり、そのなかで、社会を知り、もっと学びたいことを見つけることができると思いますが、失礼ですが、学校の先生方には十分に理解していただけていないところがあると思います。教育委員会には、学校教育と社会教育とが理解しあえる場、例えばボーイスカウトやガールスカウトなど、社会教育的な活動ができる、地域と関わる活動ができる場所を学校と連携する力をもっていただきたいと思います。そのようにすることで、相互理解で動いていけると思います。

委員長：もっと学校教育と社会教育が緊密に連携するべきだというご意見です。

委員：その通りだと思います。

委員長：まずは相互理解から始めるということです。

事務局：計画の達成状況の確認ということでは、5章あたりに、そのための手続きを公言した部分があるかと思いますが、それがうまく回るように、どのような達成状況の図り方をすればよいか、指標をどのように決めるかについては、いろいろなご意見があると思います。教育に関しては、なかなか指標で押し量りにくい取組項目もありますので、何をもって達成したと判断していくのか、数値化、見える化がしにくいと思いますが、ここは、あえて指標という形で設定することで、5年後の姿をより一層明らかにできたらよいという思いではあります。

委員長：今、第5章の評価についてご説明いただきました。これも本日の議題ですので、含めてご意見をいただきたいと思います。

委員：14ページ「安全安心な学校生活の確保」で、下の主な取組みの①に「防災・安全教育の推進」とありますが、これはあくまでも学校の中のことですか。災害が昼に起こった場合、高校生や保護者は全員出て行ってしまい、近くには中学生しか残っていないことが考えられます。その子どもたちは体力もあるし、それなりの働きをしてくれると思うので、そのようなことを、ここに記載することはできませんか。

委員長：14ページの「防災・安全教育の推進」のところで、子どもたちの役割についての記載についてご意見がありました。学校教育グループ、いかがですか。

事務局：ご意見のようなこと、例えば、中学校3年生に対する「安全・安心スクール」などでは、子どもたちを取組みの説明をするときに、昼間の災害時に対応の担い手として期待されるのは、中学生の皆さんだということを意識してもらうため、卒業するにあたって、危機管理講習の受講者資格を、皆さんに持ってほしいと一言添えています。

例えば、「安全・安心スクールの取組みを実施しています」というところの前書きに、「災害発生時の担い手となる中学生を対象に」ということであれば、すでに子どもたちに伝えていることなので、書くことはできると思います。

委員長：この計画の中には文章表記できますか。ご意見について、事務局はご考慮をよろしくお願いします。

事務局：はい。

委員：両親が共稼ぎの小学生で、家に1人でいるときに災害が起きた場合を考えて、対応については家庭の中で親御さんも言っていると思います。小学校としては、子どもたちにどのような対応をしているのですか。

委員長：いかがですか。

事務局：在宅時の対応については、具体的な指導は実施していません。防災に関わるいろいろな学習の一場面として、「お家ではどのようにしているのか」「どこに集合するというような約束事は決めておこう」といった家庭での防災教育の部分があると思います。学校発生時については、また別です。

委員：親も気づかない部分はあると思います。「うちは大丈夫だ」というような考え方を人間はもちやすいので、小学校の子どもが1人で家にいたときについては、親の責任できちんと子どもに伝えなければいけないと思います。関係した防災などの話をするとき、一言、「お家の人と、きちんと話して」ということを、メモ書きすることで、災害時に被害に合わないよう、頭の中に残る内容を、入れていただけるとよいと思います。文章に書いただけでは、そこまではいかないので、検討していただけたらよいと思います。

委員長：ただ今のご意見は、家庭教育も関わってきますので、社会教育・スポーツ振興グループも学校教育グループも一緒になって、対応策を考えていただきたいと思います。それでよろしいですか。

委員：はい。

委員長：よろしくお願いします。まだご発言のない委員の方、ご意見などはございませんか。

委員：前回から主な取組みに対し、いろいろなご意見をあげていただきました。今回は表になったので、かなり見やすいと感じます。

この中の取組みは、行政が行うものだけを書いているのですか。今後、施策を実行していく中で、行政として、教育委員会としてどのようにするのか、学校現場としてはどのようにするのか、市民はどのようにするのかという具体的な行動目標を、各取組みに書いていったら、意外にわかりやすいかと思います。

もし、学校現場でこれを読まれたら、「これは教育委員会が行うことなので、私たちは関係ない」となり兼ねない文章が多いと思います。市民としても、教育委員会、学校任せのような感じに受け取れるように思いますので、市民としてこの施策に対し、どのように協力していくのかを具体的に書いていただければ、実効性はあると思います。

委員長：この計画は行政の教科書ではありませんので、皆さんと一緒に、このまちの教育をどのようにするか、考えていけたらよいと思います。

行動目標も書いていただいたほうがよいというご意見でしたが、事務局、いかがですか。

事務局：大変貴重なご意見、ありがとうございます。ご意見については、持ち帰りまして、どこまで反

映できるかも含め、検討させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

委員：他市の計画でも、実行しているものもありますので、ご検討いただきたいと思います。

事務局：他市の事例も参考に検討させていただきます。

委員長：他にご意見などはございませんか。

委員：働き方改革が言われていますが、どのように捉えたらよいかと思っています。9ページの重点目標4「教員の資質向上」の施策の方向性の最後の一文で、「学校教育の質の維持向上を図る」という文言が2か所出てきます。どちらを削るのでしょうか。前を生かすのであれば、「今、できが悪いのでしっかりと研修して、能率よく仕事ができるようになれば、長時間労働が改善する」ということになるのでしょうか。逆に「長時間労働を改善することで、余裕をもって仕事をできるから、健康的になり、質の向上につながる」ということでしょうか。

委員長：難しい問題だと思います。事務局、いかがですか。やはり、学校教育グループでしょうか。現状でおわりの点で結構です。

事務局：一度精査させていただき、見直しを検討したいと思います。

委員長：かなり大きな問題になりますので、慎重に検討していただき、両方が伸びていけるようにお考えください。よろしいでしょうか。

委員：19ページには、働き方改革でその具体的ないろいろな取組施策を展開していただけると出ていますので、人材の確保などを含め、これから具体的なことを進めていただけるのだと思います。部活動の指導員なども、その中に入ってくるのだと思います。そのような計画や、すでに実施されているところを、働き方改革に向けて、どんどん出していただけるとよいと思います。

委員長：今のご意見について、事務局、よろしくご検討ください。

委員：今の話にも関連するのですが、働き方改革で、できるだけ教員の負担を減らしていこうという方向だということはわかりますが、これだけいろいろなことを実施すると言っても、実際にできるのですか。絵に描いた餅にならないか懸念します。

事務局：学校の教員が疲弊してしまえば、よい教育はできません。それでも、学校教育が担わなければいけないものが年々増えている感じはあります。それを整理しながら、地域の人と一緒にやる面、保護者にやっていただく面についても整理していき、行政として教員の事務作業などの時間を減らすような施策を行っていくことが必要だと思います。教員というものは、子どもと関わる時間はきっちりし、求められる力をきちんと子どもにつけていくということなどに、時間をかけられるようにしていかなければいけないと思います。

委員：その延長線上で、コミュニティ・スクールなどの考え方が打ち出されてきているのだと思います。しかし、地域も疲弊しています。

委員長：本質的な話になると思いますが、実施する施策は多く、その一方で働き方改革があり、学校は大変だということです。だからこそ、市民の力が必要だということですが、その市民の活動がうまくいっていないという現実があります。そのような意味では、社会教育が大きいです。行動する市民を育成すること、これが社会教育の大きな課題です。ぜひ、社会教育・スポーツ振興グループは学校教育グループと連携を図りながら、教育をつくっていただきたいと思います。強く希望します。

委員：21ページの「現状と課題」の下から4行目「子どもの人格形成における家庭の教育機能」の

ところで、「社会全体で子育て家庭を支援する必要性が高まっています」ということですが、それがあから、「普段からの近所づきあいを大事にしていこう」という意味合いをここに入れることはできませんか。「私たちは支援される人だ」という感じになってしまうように思います。

委員：それを行うのは、本当に教育関係の人だけになるのか、それであれば保護者の責任についても、きちんと入れてあげるほうが親切だと思います。保護者もわからずに頼っている部分もあるかもしれません。保護者は保護者でしっかりと、自分はだれを保護するのかをわかることを、今の世の中では伝えなければいけないと思います。学校や他の方に頼るだけでなく、保護者の責任も示し、それで初めて他の人に「よろしく」と言えるような気がします。助けようという気持ちだけ出してしまうと、人間は甘えてしまうものです。

委員長：いま、保護者という言葉がでましたので、PTA、つまりは社会教育ですね。コミュニティをつくるということだと思います。保護者だけでなく、近所の人たちも一緒にということをもう少し明確にするということです。文言としては、先ほど21ページに入れるという案もありましたので、ご検討していただきたいと思います。

事務局：この案には私の意見も十分に反映し切れていない部分もありますが、ざっくり読んだ感じでは、人材育成のこと、コミュニティづくりの書き込みは、若干弱いと思いました。それらの部分については、書き込みを強化したいと思います。

委員長：よろしく願いいたします。

違う論点のご意見でも結構ですので、ご発言ください。

委員：先ほど、コミュニティの話がでしたが、子育て家庭から子どもの泣き声が聞こえると、虐待が疑われます。いろいろなところに虐待についてのポスターが貼ってありますので、近所の方からの通報があるようです。日ごろから近所づきあいをしていると、通報する前に「どうしたの」と声かけができると思います。核家族が増えてきていますし、近所と関わりにくい家庭も増えていると思います。

また、資料の3ページの「基本的な生活習慣づくり」の中で、「家庭と連携しながら、子どもの生活リズムの定着を図り」とありますが、今はなかなか基本的な生活習慣ができていない家庭も増えてきています。なので家庭と連携するというだけではなく、必要な家庭にはやはりサポートがいると思います。

委員長：この度の国の学力調査のときに、家庭環境のデータも調べていますよね。それを見ながら方策をとっていくことが必要だと思います。ご検討ください。文字の修正などはなくてよろしいでしょうか。

委員：はい。

委員：私は勉強不足なのですが、SDGsのロゴが入っていて、これはとても重要なのだということがわかります。せっかくロゴを入れていただいているのですが、数字は読み取れても、字が読み取れません。字が読み取れると内容もわかり、さらによいと思います。

委員長：それについては、事前に事務局も認識していました。数字がはっきりとわかれば、どこかにまとめて、1が何なのか、2が何なのかを記していただけるとよいと思います。

他にご意見などはございませんか。

委員：3ページの「質の高い幼児教育・保育の提供」の4行目「また、本市の状況に応じた保育の提供体制の整備を進めます」とあります。私はこの内容が大まかにわかりますが、一般の方が読

まれるには、もうすこし具体的な表現をされた方がよりわかりやすいと思います。

委員長：事務局いかがですか。

事務局：ご指摘の部分は少し抽象的な表現だと思います。ただ、この内容については2ページの下段に記載しているように、少子化の進行する一方で、保育を希望する保護者が増加し続けている状況ですので、待機児童ということが1つの大きな課題になっています。5年後の主要項目にも挙げていますが、「待機児童を0にしていこう」という目標も掲げているなかで、それも含んだ上での提供体制ということです。ただ、保育所だけではなく、「教育・保育」ということですので、幼稚園教育を利用されている保護者の方もおられますので、表現については再検討をさせていただきたいと思います。

委員長：よろしいですか。

委員：はい。

委員長：他にご意見などはございませんか。

委員：先ほどお話がありました、災害発生時の支援について、小学校で避難訓練をしたときに、特に高学年の児童に対しては、学校も避難所になるので、高学年がどのように動くか、地域の方が避難されてきたときには、先生たちだけでは絶対に無理だから、君たちの手が必要なんだという話をして、だから死んではいけない、何としても助かり、避難してきた地域の方を助けるのだという意識づけを、各小学校で始めています。それと同時に、学校での避難はこのような形だけでも、家にいたときにはどのようにするのか、家の人と相談しようということで、避難訓練の前にDVDで、阪神淡路大震災などの例を見せたりしています。そのようなことも担任や全校集会で指導を徐々にしております。

学校には防災倉庫なども整備されていますので、自治会の方、防犯委員の方が自治会の避難訓練をします。休日なのでなかなか難しいのですが、そこにうまく子どもたちを巻き込んで取組みを展開できれば、震災時の子どもたちの地域への貢献、社会参画が進むという方向で育てていけるのではないかと思います。それが地域へのボランティアという形にも発展していけるかと思います。そのような防災の面からの意識付けも、1つの方法だと思います。

委員長：貴重なご意見をありがとうございます。1点目は高学年児童の意識と役割、行動についてですが、学習指導要領の特別活動のところ、強く言われていることです。2点目は地域での防災体制を連携してつくっていくということです。

この計画の中で言葉の修正など、お気づきの点はありませんか。

委員：14ページの主な取組み「防災・安全教育の推進」の中の「地域と連携しながら災害時に基点となる学校の防災力の向上」に、子どもを育てるという意味も含まれればよいと思います。

委員長：特に地域との連携が大事なのだと思います。また事務局は担当課と相談の上、ぜひご意見を盛り込んでいただきたいと思います。他にご意見などはございませんか。

委員：保護者目線で感想を申し上げます。家庭教育というものは大変重要だと思いますが、0歳から保育所に入っていて、全く家庭教育がなされていない方がいます。小学校の登校班の見守りに行くと、まず学校まで歩けなかったり、傘がさせなかったり、車がきたら避けるというような基本的な交通ルールを知らなかったりします。家庭で教えられるべき常識が欠落している子どもが増えていると、8年ほど見守りをしていますが、この3年ほど強く感じます。社会や学校の教育もすべて大事ですが、もっと家庭で日ごろからできることがあると思います。親自身も

スマートフォンを使いながら歩いているような方もいます。自転車の前後に子どもを乗せている親がきたら、歩行者が避けるということで、「子どもがいたら偉いのかな」と思い、同じ母親として悲しいと感じます。

その一方で、熱心な親御さんは、昔ながらの将棋などを習わせたいという方もいます。私も習わせたいと思い、公民館に問い合わせをしましたが、大阪狭山市では若駒会はなくなっています。将棋を習わす場所が大阪狭山市にはなく、堺市にはありますので訪ねていきましたが、大阪狭山市でも習うことができればよいと思います。公民館にいろいろな講座がありますが、アンケートなどを実施して、どのような講座があったらよいか意見を出せるような機会があればうれしいと思います。

委員長：貴重なご感想をいただき、ありがたく思います。文言の修正などが必要だと思われるところはありますか。

委員：ありません。

委員長：ありがとうございます。事務局、ご意見を参考にしてください。

委員：文章の細かい修正点は文書にします。

本日の会議を聞いて、防災がポイントになってくると思います。そのような意味では、教員に毎年、救急訓練の講習を実施しているかと思しますので、市民の方がご存知かはわかりませんが、そこは市民の方に安心を与えるような指標になると思います。その中でも講習修了者だけでなく、講習を実施できる指導者の育成なども、事業の中で具体的な施策としてあるとよいと思います。そして、そこに地域の方や子どもも巻き込み、防災士などの資格もありますが、わかりやすい展開ができればよいと思います。

また、安全のところ、給食について「食中毒0」は当然のことなので、今、大きな問題になっているアレルギー対策も入れていけるとよいと思います。

委員長：2点目の学校給食に関して、私が知っている限りでは、大阪狭山市はきっちりしている評判の高い市だと聞いているのですが。

事務局：アレルギー対応としては、ずっと除去食対応をしておりますので、そのようなことも記載していきたいと思います。

事務局：本市は先進的に取り組んでいるということで、結構、視察も受けています。PRを含めることも検討いたします。

委員：子どもに弁当をもたせている場合もありますよね。個人差のある問題ですので、何がいけないのかわからず、難しい問題だと思います。最終的には極論でいうと保護者の責任だと思います。牛乳などの飛沫を浴びただけで全身の調子がわるくなるという場合もありますので、大変なことだと思います。

委員長：大変手間がかかることですが、丁寧な子どもの食事指導をお願いしたいと思います。このことについて、他にご意見はございませんか。

では、他にご意見などはございませんか。

委員：15ページの最初のところで「外国籍や性的マイノリティなど、子どもたちが抱える課題が多様化しており」とありますが、これは社会的な問題だと思います。まず社会的な課題を挙げ、その中で「子どもたちも対応をもとめられている」とした流れにしたほうがよいと思います。

委員長：まず社会的な課題であるということですね。担当課は学校教育グループでしょうか。いかが

ですか。

事務局：ご意見の通りだと思いますので、「そのような社会情勢があるので、子どもにもそのような手立てが必要だ」という書き出しになるよう、検討いたします。

委員長：表現の手直しをお願いします。

委員：18ページのアンケート結果において希望する施策である、子どもに「悩み事がある場合、専門家に気軽に相談できる体制をつくる」「子どもと教師がじっくり向き合う時間を確保する」ということは、実際問題として非常に難しいと思います。「相談できる体制」とは、どのようなことを意図していますか。窓口をつくるということですか。

委員長：学校教育グループ、いかがですか。

事務局：総合教育会議でも同じようなご意見をいただきましたが、実際の相談窓口は学校内にも学校外にもいくつかあり、充実させているところです。それが、保護者に情報として届いているのかは、見直しの必要があるかと思います。周知に努めてまいりたいと思います。

委員：残り時間も少なくなりましたので、語句などで気づいた点を述べます。

2ページに「本市においても、少子化の進行や女性の社会進出により」とありますが、他をみると「進展」で統一されています。

その次の行に「保育を希望する児童が年々増加しています」とありますが、これは「児童」ですか、「幼児」ですか。

事務局：これは「児童」という表現でよろしいです。

委員：4ページの3行目「技術革新が一層進展し、社会全体が大きく変化する、予測が困難な時代となっています」とありますが、詰まったような言い方ですので、文章を再考したほうがよいと思います。

その後も「保護者・地域の方々」という表現がありますが、「・」と「、」が混在していますので、統一するとよいと思います。

その下に「情報モラル」「ICT」という文言がでてきますが、一般の保護者の方にもわかりやすいように注釈をつけるなどの工夫が必要だと思います。

事務局：最終的に、用語解説をまとめ、資料として添付させていただこうと考えております。ありがとうございます。

委員：わかりました。

5ページの⑤「すべての教科における言語活動の充実」で「実際の生活のなかで生きて働く言語力」という表現がありますが、少しわかりにくいと感じます。「実際の生活の中で生かすことができる言語力」というような表現のほうがわかりやすいかと思います。

8ページの③「不登校、問題行動などの未然防止ときめ細かな指導体制の充実」で「児童生徒の学校生活への適応を図ります」とありますが、「適応を図ります」はこの表現でよろしいですか。

事務局：表現について、再検討させていただきます。

委員：10ページの④「教員の資質能力の向上」で「常に人権感覚を磨くように努めます」という表現が唐突に出てきます。無理につなぐのであれば、「定期的に活用するなど」というような前置きが必要だと思います。

11ページの中ほど「意識の高さが感じられます」という表現がありますが、意識の高さで

よろしいのでしょうか。この項目に丸をつけた方は、期待感が高いのではないのでしょうか。「期待感が高まっていると思われます」という表現の方がふさわしいと思います。

13 ページに「いつの時代でも変わらずに必要な力を高めつつ」という表現がありますが、「いつの時代においても、必要とされる力を高めつつ」という表現でつなぐとよいと思います。

その下の「施策の方向性」の枠の中、3 行目に「自分の役割を果たしながら」とありますが「自らの役割」としたほうがよいかと思えます。

21 ページの4 行目「家庭環境の多様化や地域社会の変化により、家庭教育が本来の機能を果たすことが困難な社会となっています」という文章ですが、「社会」という単語が続き、少しおかしいと感じます。「本来の機能を果たすことが困難な状況となっています」とした方がよいと思います。その次に「このような状況にあって」と続きますので、「このようななか」とするとよいと思います。

26 ページの中ほどに、「市民がスポーツ活動に親しめる場づくり」という表現がありますが、「親しむことができる場づくり」としたほうがよいかもしれません。

以上です。

委員長：ありがとうございます。文言や表現については、他の委員からもご意見をいただき、今のご指摘も含め、事務局で再検討をお願いします。

第5章が残っておりますが、評価についてはご意見ありませんか。先ほど、5年後の見直しでは遅いというご指摘をいただきましたが、進行管理ということで、指標をみてうまくもっていけるようにするということが必要だと思えます。評価は、次に生かすためのものですので、とても大事だと思えます。ご意見があればお願いします。

委員：聞き逃しましたが、これの指標と行政の点検評価はリンクするということですか。

事務局：基本的には総合計画に掲げている指標とリンクしたもので、資料をつくっています。それを基本としながら、ここからさらに広げられる項目があれば、ご意見をいただきながら、その部分についても指標化していけたらよいと考えています。最終的には点検評価にもリンクさせたいと考えています。

委員：こちらで変更点があれば、向こうでも変更するということですか。

事務局：向こうというのは、総合計画ですか。

委員：行政の提言です。

事務局：まだ策定途中ですので、意見交換はしていきたいと思っております。

委員：中には、行政側で項目があがっていないものもありますよね。

事務局：はい。それを基本として項目を拡充するような形で本日の資料をつくっております。

委員長：評価の方法としてよい考えがあればお示してください。

評価とは大変難しく、評価の方法としては定性的な評価と定量的な評価があり、その両面から入っていかなければいけません。この資料では、定量的なものの1つの基準をお示しいただいています。これ以外にも評価の方法はありますので、ご意見があれば事務局までお願いします。

事務局：改めまして、事務局から通知文をつくり、ご意見をいただく締め切りなどをご案内させていただきます。

委員長：よろしくお願ひします。

委員：現状値と目標値がありますが、その値によって大きく違うと思ひます。目標値をあげれば大変だということもわかりますが、違う目で見ても決めていかないと、実際に効力はないように思ひます。

委員長：そのようなことも考慮願ひます。

委員：評価も大切ですが、計画を市民や学校関係者に周知する発信方法が書かれていますが、これは5年前とまったく同じものです。果たして、前回の第1期の教育振興基本計画がどこまで市民に浸透してきたかを考えると、かなり不安があります。保護者の中には、全くご存知ない方もおられますし、学校現場の先生方も、この計画の内容をご存知いただけていない方も多いい思ひます。同じような発信方法ではいけないと思ひますので、再検討していただき、いかに広く市民に伝えられるか、根本的などころの工夫をお願ひしたいと思ひます。

委員：前回は簡略版のチラシのようなものをつくりましたね。あれはどのような使い方をしたのですか。

委員：保護者までには渡っていないと思ひます。

事務局：概要版は今回も同じように作成する予定としております。どのように活用していくか、例えば学校で可能な限り、保護者の方にもご覧いただけるように、まとまった部数をお配りして閲覧をしていただくとか、そのようなことも併せて検討させていただきます。

委員：各学校で教職員を対象に勉強会を実施したり、保護者・PTAの集会で発表したりしなければ、配るだけでは細かいところはだれも見ないと思ひます。

委員長：周知については総合教育会議でも問題になっていることです。ご意見のように配るだけではなく、研修でのディスカッションにも使っていただくというような形も、関係グループの方にはよろしくお願ひしたいと思ひます。特に学校の先生方、保護者を対象によりしくお願ひします。

残り時間が少なくなりましたが、よろしいですか。次回の策定委員会は、パブリックコメントを行う直前の開催になります。本日、長時間に渡り、貴重なご意見をいただきました。事務局はこれを持ち帰っていただき、再検討して、新しく最終案としてご提案いただくということではよろしいでしょうか。では、次に進みます。

(3) その他・連絡事項

委員長：議事の3点目、その他・連絡事項ということで、事務局お願ひします。

事務局：第5回教育振興基本計画策定委員会について説明させていただきます。事前に配布いたしました日程調整表にて調整させていただきましたところ、11月27日水曜日の午前10時より、大阪狭山市文化会館（SAYAKAホール）大会議室にて開催させていただきたいと考えております。パブリックコメント前に素案を取りまとめる会議となりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。説明は以上です。

委員長：ご説明いただいた内容について、何かありますでしょうか。

3 閉会

委員長：以上をもちまして、第4回大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会を閉会させていただきます。長時間のご議論ありがとうございました。